

岡山県自然環境保全審議会 全体会議 議事概要

1 日 時： 令和2年11月11日（水）14：00～15：20

2 場 所： メルパルク岡山 1階「泰平Ⅱ」

3 議 題
（諮問事項）： 岡山県自然保護基本計画の改訂について

4 出 席 者：

○委員（五十音順、敬称略）

足立 周子、沖 陽子、奥島 雄一、河内 恵子、小見山 節夫、鈴木 茂之、
高橋 正徳、田中 利佳、千葉 喬三、坪木 直文、中村 伸一、西垣 誠、
二宮 一枝、波田 善夫、林 花奈子、福田 佳代、福田 伸子、三木 直子、
山田 総一郎、横田 寿男（計20名、欠席4名）

○事務局（県）

環境文化部長、自然環境課長、事務局職員

◇ 会 議 資 料： 別添のとおり

◇ 議 事 概 要：

－事務局説明－（自然環境課長（以下、課長と表記）が資料に基づき説明）

－意見－

（委員）

- ・自然保護センターの運営は、ソフト事業であり、目標達成は、マンパワーに頼るものである。人員、予算措置が必要だ。
- ・野生生物目録、レッドデータブックの見直しにおいて、これを行う検討会の機能確保が必要だ。メンバーは高齢化し、アマチュア的な専門家にも頼っている。
このままでは、10年後の見直しはできるかもしれないが、20年後の見直しは難しい。
人員、予算措置が必要だ。

（課長）

- ・長期の契約の指定管理料の増額は難しいが、何か別の事業での対応もある。
レッドデータブックについても、心にとめて考えていきたい。

（委員）

- ・サブタイトルの「暮らしと調和する豊かな自然」は、先に人の暮らしがきていて、人間優先ではないかと感じる。暮らしと調和の趣旨は。

（課長）

- ・「人の暮らしと自然との調和」であり、人間優先の意図はない。

(委員)

- ・サブタイトルを「暮らしと調和する豊かな自然」とした経緯は。

(課長)

- ・計画の目標「自然との共生」は変えていない。
生物多様性だけにスポットを当ててではなく、より幅広く「人と自然との調和」というところにスポットを当て、調和の中には生物多様性も含める形にしようとする思いである。

(委員)

- ・「共生」には、人と自然の優劣はないのだろう。抽象的な言葉なので、人間優先ではないことを具体的な計画の中で示していくことで、誤解をまねかないようにすればよいと思う。

(委員)

- ・数値の目標を現行計画と比較すると、(実績の)値が下がっているものがある。
数値目標の設定は難しいと思うところでもあり、プロセスの評価を取り入れてはどうか。

(課長)

- ・現行計画では頑張って目標設定したが、実績に結びつかないものもあった。
今回、より短い4年間の目標設定にして、きめ細かく確認しながら取り組んでいきたい。

(委員)

- ・現行計画の目標のこどもエコクラブ会員数がなくなったが理由は。子どもに関するものがいくつかあったらよい。

(委員)

- ・こどもエコクラブは、本文でふれられているか。

(課長)

- ・こどもエコクラブは、温暖化対策に向けた面もあり、アクションプランの目標としては、自然保護にポイントを置いて選定した。
本文には、こどもエコクラブを盛り込んでいる。

(委員)

- ・みどりの少年隊と、こどもエコクラブは似ているが、目的が異なるなら盛り込んでおいた方がよいのではないか。

(課長)

- ・調整してみたい。

(委員)

- ・必ず、目標に入れてほしいという意図ではないので、無理せず考えてほしい。

(委員)

- ・アウトプット目標についても、アウトカム目標との関連が分かるような形で、盛り込んだ方が説得力があるのではないか。

(課長)

- ・アウトカム目標は、(変化や影響の測定など) 目標設定が難しい面もある。海のゆりかご(藻場)の面積など、関係部が所管する計画の目標との調整で盛り込めないものもあった。検討させていただきたい。

(委員)

- ・「生物多様性を育む」のサブタイトルについて、生物多様性は、まさに自然と人の暮らしの調和の証で、里山など人の様々な利用によって生物多様性が高まるというのが根本にあるということを補足として述べさせていただく。

(課長)

- ・人の手により保たれる調和の中で育まれる生物多様性も大切であり、里地里山の保全などを含めた自然保護に取り組んでいきたい。

(委員)

- ・温泉など、人間は自然に癒されている。自然に人間が侵入している。子ども達に自然の癒しを伝えていくことが大切だ。

(委員)

- ・コロナの影響下でも、自然保護センターのイベントに対応しきれないくらい多くの申込・参加がある。駐車場のキャパを超えることもあった。コロナをチャンスにとらえ、具体的に動き出し、(この傾向を)本物にしていくべきだ。計画をつくって終わりではなく、具体的に事業を行う予算確保もお願いしたい。

(委員)

- ・生物多様性の保全には、里地里山の保全が重要だ。具体的な取組が少ないと考える。

(委員)

- ・生物多様性について、(多様な生物は、)里地里山に一番多くいる。里山の話は、生物多様性のところに書き込めばよい。多様性という言葉の使い方は難しいが、人と自然のどちらが主かなども含め、そのあたりがあつたらよい。自然保護の分野では、数値目標の設定は難しいものだが、意欲的な目標を立てていると思う。目標が先か取組内容が先かの議論があるが、やはり目標が先だと思う。取り組んで、4年ごとに、見直すべきところは見直していけばよい。色々と意見をいただいた。今回は継続審議として、次回、審議してまとめていきたい。